

介護医療院におけるエンドオブライフケアの充実を目指して ～業務改善とチームケアへの取り組み～

施設名：介護医療院鳴門山上病院

発表者：大橋 小百合（看護師）

共同演者：

【はじめに】

当施設は、平成30年5月1日新病院開設の際、介護療養病床60床をI型介護医療院32床に転換し、独立した施設として3年が経過した。風光明媚な環境の中、医療機能と生活施設としての機能を兼ね備え、地域と連携し超高齢社会を支える重要な使命を担っている。これまで、介護医療院の理念に沿う施設作りを目指し、勉強会等を開催し介護療養病床と介護医療院の違い、役割について理解を深め適切なケア提供が図れるよう試行錯誤を繰り返し業務、チームケアに取り組んできた。令和2年4月、ますますニーズの高い施設となり、病棟編成で32床から60床へ増床となった。しかし、スタッフから増床や入所者の重症化による業務への不安、思いに寄り添った尊厳あるケア提供ができていだろうか？等の様々な声が聞かれたため現状ケアを見直し業務改善とチームケアに取り組む成果が得られたのでここに報告する。

【方法】

事前に再構築した業務内容、デスカンファレンス資料を基に業務改善カンファレンスで意見交換を行った。業務変更は朝夕のミーティング・連絡ノートを活用し周知した。

【カンファレンス内容】

- ・増床により入所者の細かな情報の把握が難しくなった。
- ・患者情報・フェイスシートだけでは情報が乏しく、個々の背景が見えずニーズが捉えにくい。
- ・多くの入所者の楽しみである入浴ケアの充実を図りたい。
- ・エンドオブライフケアを充実させ、個々に寄り添った尊厳あるケアに繋げたい。

【取り組み及び結果】

病床を4チームに分けた体制へ変更し小単位で入所者を細かく把握できるようになった。「生活歴シート」の活用により入所者の思いを知ることでコミュニケーションが深まりスタッフ間での情報共有が図れた。またケアカンファレンスでの検討課題にチームで取り組み思いに寄り沿ったケア提供に繋がった。

【考察及びまとめ】

桑田は、「時の流れとともに求められることも変化する。改善とは変化を起こすことである」と述べている。今回の取り組みにより、ケアのマンネリ化を防ぎスタッフのモチベーション維持・意識・意欲の向上に繋がったと考える。今後も常に現状を見直し、入所者へチームで充実したエンドオブライフケアを提供していきたい。